

12. 粗朶消波工に関するとりまとめ

水上部において、内蔵粗朶の流出、劣化や杭の腐食と損傷が顕著。

内蔵粗朶の流出状況



水面上部の木杭の腐食及び損傷状況

整備後約5年程度で、緊急保全対策工の粗朶消波工の木杭の劣化が著しく、周辺の景観、漁網の破損、河川管理構造物等に悪影響を及ぼしており、補修が必要となっている。

緊急保全対策以前に整備され、整備後約7年経過した粗朶消波工（緊急保全対策工ではない）では、杭頭部の劣化が顕著で、打設杭を連結する横木、縦木がほとんど連結できない状況で、これらの部材は周辺地区に大量に流出した。

1. 境島地区緊急対策工（H13.3～H14.3 整備：約5年経過）[H18.10.18 撮影]



粗朶の押え杭が損傷している



粗朶工の端部が腐食している

2. 緊急保全対策以前に整備された消波工

（爪木地区，H11.3～H11.12 整備：約7年経過）[H18.10.18 撮影]



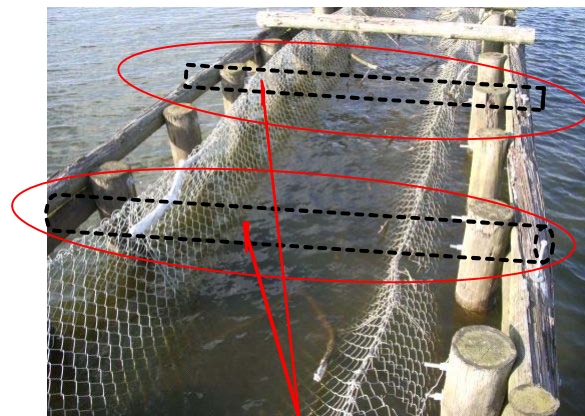
杭の損傷状況（1）



杭の損傷状況（2）



縦木が腐蝕している



縦木が流出している



杭の損傷状況（3）



粗朶の押え杭が全て流出している